１．　第 31 回日本臨床内科医学会報告

（平成 29 年 10 月 7 日～8 日；於ホテルニューオータニ大阪）

１）　第 58 回代議員会報告

10 月 7 日 18 時から開催され、各担当からの部会報告のあと、会費値上げについて議題が挙がっておりました。会報、ニュース、会員配布用の出版物など、会の活動を有志のボランティアに頼っていること、立ち上げから一度も値上げしたいないことなどから、値上げやむなしとの感はある一方で、かえって会員数の減少に拍車をかけるのではないかとの意見も寄せられました。

２）　第 31 回日本臨床内科医学会報告

10 月 8 日に開催され、前日の代議員会で報告された、各活動の進捗状況の報告があり、その後会費値上げについてのお願いがありました。今回の総会では委任状もとっていないため、会費値上げについて周知・検討の上、来年の春の総会で委任状等も含めきちんと決を採って決定することとなりました。

３）　特別講演

今回は京都大学 iPS 細胞研究所の山中伸弥先生と理化学研究所の高橋政代先生をお招きし、「iPS 細胞の現状とその未来」についての講演がありました。お二方のネームバリューもあってか、多数の出席者があり会場はほぼ満席状態でした。

山中先生からは、iPS 細胞の研究にあたり、ご尊父の病気、難病患者等の出会いがあり、何としても新薬を開発したいとの強い思いがモチベーションになっているとのお話がありました。研究には莫大な費用がかかり予算が足りないため、山中先生ご自身がマラソン大会に出場して寄付金集めの広告塔になるなど、大変な苦労があるようです。会員の皆様にもぜひご寄付をお願いしたいとのことで　0120-80-8748（走れ山中伸弥）に電話すれば寄付方法がわかるとのことです。

高橋先生からは IPS 細胞を用いた網膜の再生についてお話がありました。すでに研究段階から臨床応用の段階に達したこと、個人個人の細胞からのオーダーメイドでは時間もコストもかかることから、誰にでも適用できる「既製品」を作るため、それに適した遺伝子を持つ人を探し当て、数種類のバリエーションで準備ができつつあるとのことです。日本の場合、絶対的な安全性を求められることでハードルが上がること、STAP 細胞の騒ぎで一時研究が中断させられたことなど、苦労は尽きないようですが、確実に臨床応用が進んでいるようです。

島根県臨床内科医会　星野　潮